

高安詰所だより

第4号
立教185年
4月16日



別席場前 しだれ桜

春4月。長い冬の眠りから目覚めた蕾が満を持して花開き、見られた野山の風景が一新しました。おちばの桜も年々彩りを深め、目を楽しませ、心を和ませてくれていますが、中でも別席場前の枝垂れ桜などは、今年からライトアップされ、その絢爛豪華な姿がSNS上でも話題になり、一般の方々が毎夜大勢集まり、花を愛で写真や動画を撮ったり春の夜の一時を楽しんでいます。

私達もコロナの長い冬眠から目を覚まし、躍動のときを迎えようとしています。世界たすけを急き込まれる教祖が、深い思召しの上から遙々高安にお入り込み下さり、「うちわけ場所」という尊い理をお許し下された6月18日が、もう目の前に迫っています。

戦争の恐怖と細菌の猛威におののく世界中の人々の心に、親神様の思召しが届くよう、私達よふぼくはしっかりと「にをいがけおたすけ」そして「つくし・はこび」に励んで、お入り込みから百四十年目の成人した姿を、教祖にご覧頂きましょう。

詰所主任 芦田孝廣

教祖お入り込み百四十周年に向けて

6月18日から7月25日までの「お入り込み記念期間」には、大勢の帰参者が見込まれています。お帰り頂く信者の皆さんに安全快適に過ごして頂けることを常に心に置いて、詰所スタッフ一同、準備に追われる毎日です。

コロナ対策としての緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の規制により、おちばがえりされる信者様が激減、詰所を利用される方もほんの僅かという日がほぼ二年間続きました。これに伴い詰所ではこれまでの運営ローテーションにも影響を及ぼし、各部署に於いても様々な支障を来たし、見直す必要のある箇所も散見されましたので、これを機に全体を一から見直し、新たな体制をもってお迎えしようとして、目下鋭意改善を進めております。

信者の皆様にはどうぞ、おちばがえりを楽しみに、そして詰所での宿泊休憩を楽しみに、おちばがえりをお願いします。

ひのきしん風景



ふとん干し



ペンキ塗り

詰所行事予定(5月)

- 1日 おちば伏せ込みひのきしん
- 3日 詰所三区会例会(中津詰所)
- 4日 常会
- 6日 勤務者修練Ⅰ
- 8日 にをいがけ実動
- 13日 おつとめ勉強会
- 17日 直轄祭参拝(大教会)
- 20日 勤務者修練Ⅱ
- 23日 大教会月次祭参拝
- 25日 月例朝礼
- 26日 本部月次祭参拝者受け入れ

詰所の動き(3・4月)

春の学生おちばがえり

去る3月28日、天理教学生会「春の学生おちばがえり」が本部中庭にて開催され、この日を待ちわびた大勢の学生さん達が全国各地から結集し、春のおちばは若者達の熱気に包まれました。

期間中、詰所でも大勢の学生さんを受け入れさせて頂きましたが、以前は難なく受け入れていたのに、二年ぶりの大人数とあって、つ

いつい忘れてしまっているマニュアルや接客上の不備などが見つかり、戸惑う場面も屡々ありました。

早速修正を施し確認しましたが、久々の大口団体の受け入れは、結果として6月本番の受け入れに大いに役立った次第でありました。



にをいがけ実動（4月8日）

爽やかな春のそよ風に誘われて、今月も詰所勤務者一同は、勇んでにをいがけに歩かせて頂きました。

コロナも幾分収まりをみせているので、インターフォン越しとはいえ、訪問先の対応も以前に比べ幾分柔らかくなってきたように感じられました。

こうして元気で歩かせて頂けることの喜びを噛みしめつつ、これからもますます勇んでにをいがけに励み、「お入り込み」の旬の勢いを頂戴して、「訪問先でのおさづけ取り次ぎ」を目指し頑張ります。今月は嘉幡町近辺を元気に歩かせて頂きました。



日曜日とあって
少年会員も参加。
実動終えて公園で
ホッと一息。



嘉幡町 近郊地図



おつとめ勉強会（4月12日）

編修後記

修養科生の方々は、何とか修養科中においてふり、鳴り物を習得しようとして、毎日一生懸命修練に励んでおられます。

一方で、詰所勤務に携わる者は、信仰姿勢は申すまでもなく、生活態度に於いても、そしておつとめの手振りに於いても、修養科生の手本となることが求められます。

そこで勤務者も毎月の「おつとめ勉強会」を励みに、毎日勤務終了後に、修養科生に負けない位、一生懸命お稽古に励んでいます。

修養科生（第969期生）

早いもので、いつの間にか今期修養科も半分が過ぎました。

初めのうちは慣れないことばかりの毎日で、それぞれに戸惑いを感じておられていましたが、今では修養科生活、団体生活にもすっかり慣れ、仲間とも打ちとけ合って和気藹々の楽しい雰囲気の中で、真剣に教理を学び、実践に励んでおられます。

おてふりも教養掛先生の熱心な指導を受けて、驚くほど上達され頼もしい限りです。ひのきしんも率先して勇んで励まれ、陰徳を積み因縁納消の道をしつかりと歩んでおられます。

砲撃によって廃墟と化したウクライナ東南部の都市、そして死と隣り合わせの恐怖に怯える市民の姿が連日報道されている。

これが私達と同じ地球の、同じ時間に現在進行しているもう一つの現実だと思えば、暗くやるせない気持ちになる。

親神様が望まれ、私達が目指す「陽気ぐらし世界」がもはや果てしなく遠い世界のようにさえ思えてくる。けれども私達はこの現実から目を背けてはいけない。諦めてはいけない。

親神様のお働きを得て、必ずや治まりの日、世界一れつが互いたすけあう「陽気ぐらし世界」がくることを固く信じ、思召しに沿わせて頂けるよう日々の努力を、一つ一つ積み重ねていかねばならない。



発行 天理教高安大教会信者詰所
発行者 芦田孝廣
印刷 天理市守目堂町二五五番地